

### 第3章 産業廃棄物発生量等の比較

#### 第1節 前回調査結果との比較

##### 1 発生・排出状況の比較

平成16年度の発生量、排出量を前回調査（平成12年度実績）と種類別に比較すると、この4年間で、発生量（農業、鉱業、医療業除く）は919千t（25%）、排出量は1,048千t（32%）増加している（図3-1-1）。

なお、グラフは発生量を比較したものである。

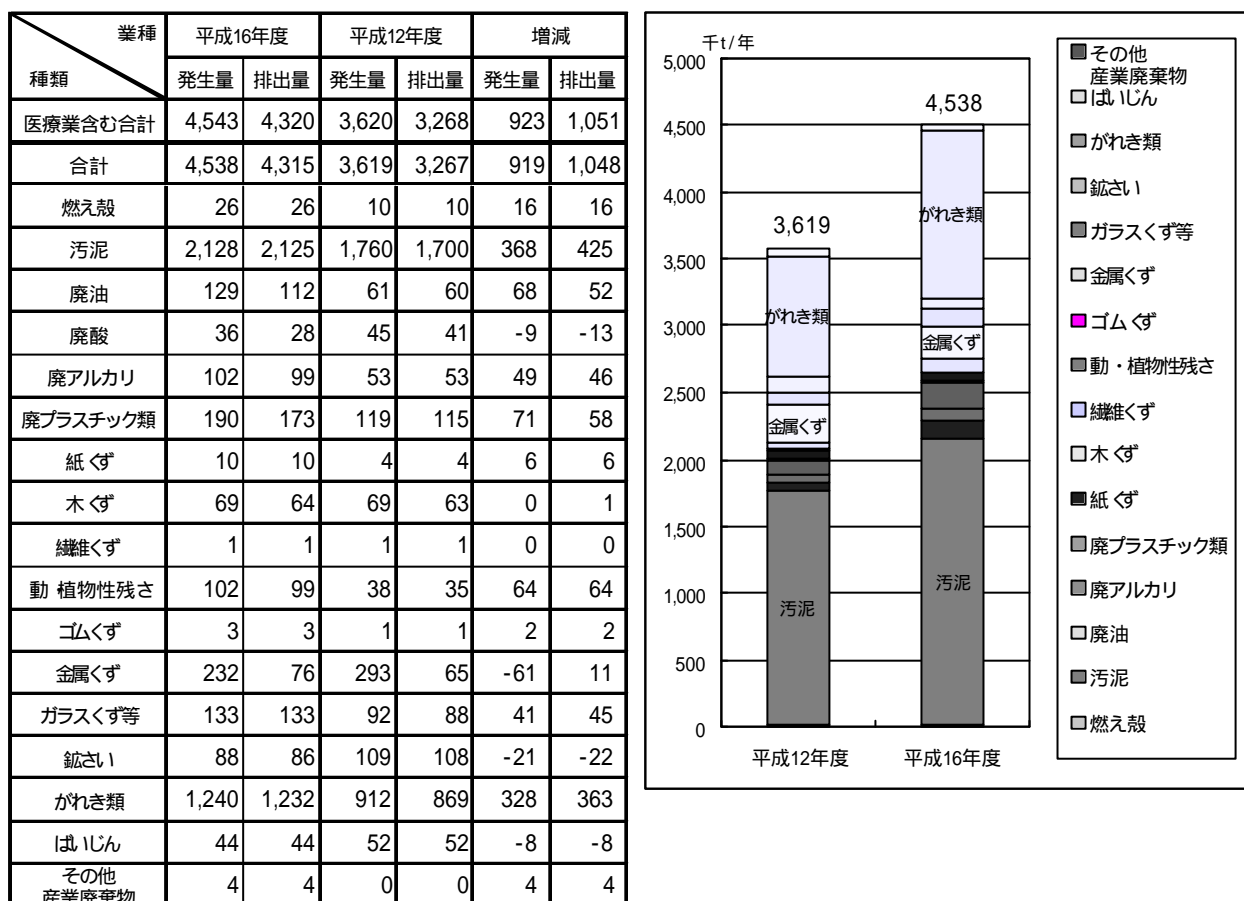


図3-1-1 種類別の発生量・排出量の比較

業種別に比較すると、運輸業（-8千t）が減少したが、建設業（349千t）や製造業（475千t）、電気・水道業（102千t）などは増加しており、排出量も同じ傾向である（図3-1-2）。

なお、グラフは発生量を比較したものである。

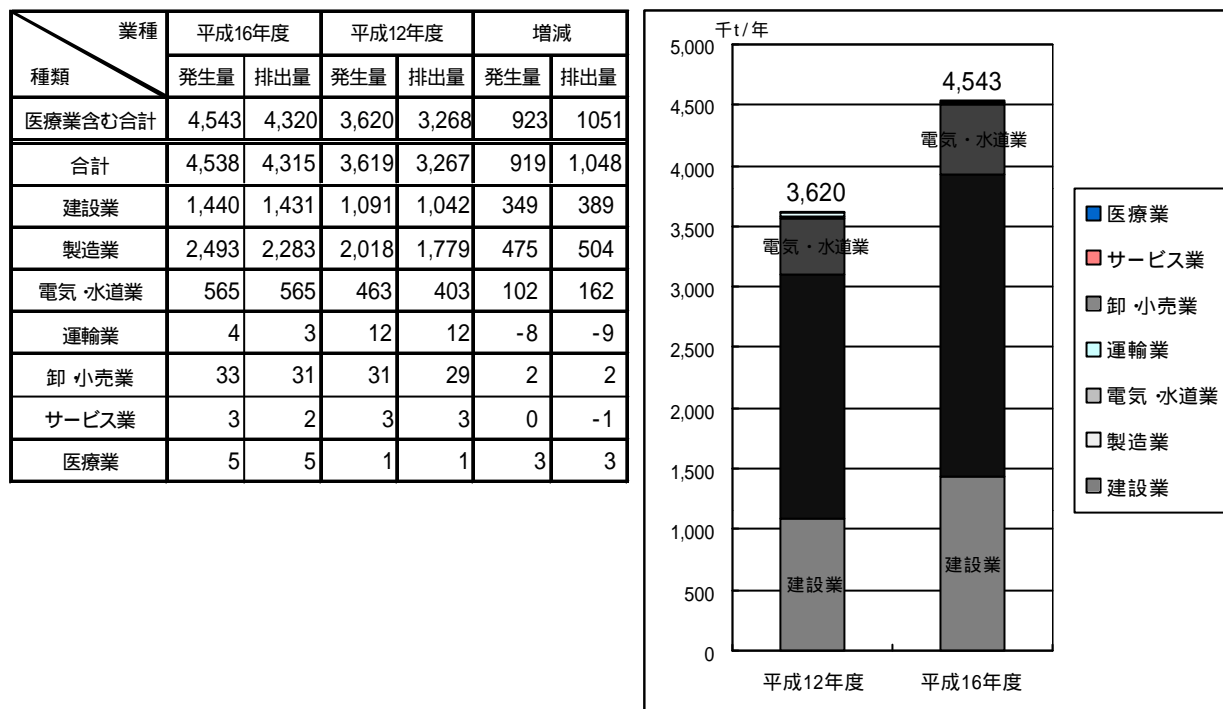


図3-1-2 業種別の発生量・排出量の比較

## 2 処理状況の比較

発生量に対する各処理量の割合を前回調査と比較すると次のとおりである。

発生量は増加しており、その処理については、減量化量及び資源化量は増加し、最終処分量は大幅に減少している。

表3-1-3 処理状況の比較

	発生量	排出量	減量化量	資源化量	最終処分量
平成12年度	3,619 (100%)	3,267 (90%)	1,791 (49%)	1,482 (41%)	345 (10%)
平成16年度	4,538 (100%)	4,315 (95%)	2,434 (54%)	1,921 (42%)	167 (4%)
増減(率)	919 (25%)	1,048 (32%)	643 (36%)	439 (30%)	-178 (-52%)

## 第2節 排出状況の将来見込み

排出量の将来予測は、次の考え方で行った。

産業廃棄物の排出原単位及び処理形態も将来に渡り一定であると仮定して、各種活動量指標を将来推計し、推計した活動量指標に平成16年度の原単位を乗じて排出量等を予測した。

業種別、種類別排出量の将来見込みは、図3-2-1、図3-2-2に示すとおりである。

(千t/年)	H16	H21	H26
建設業	1,431	1,321	1,248
製造業	2,283	2,349	2,403
電気・水道業	565	717	837
その他	41	37	32
排出量計	4,320	4,424	4,521

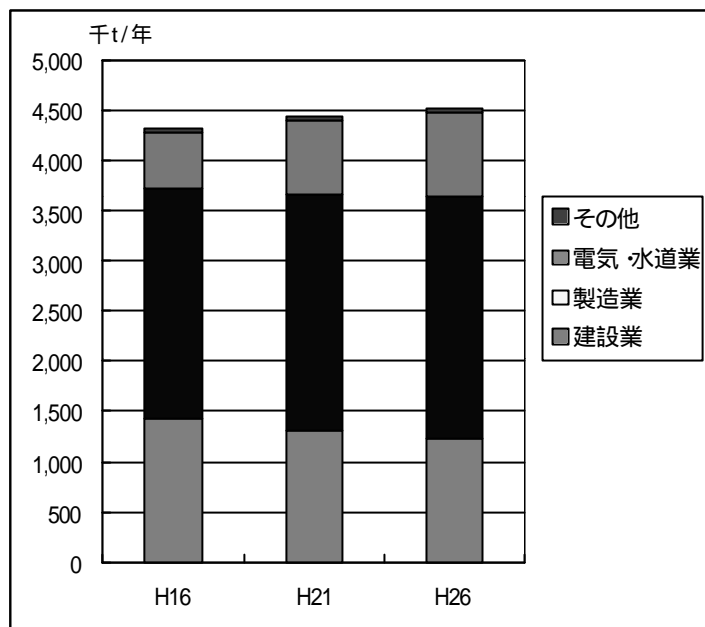


図3-2-1 業種別排出量の将来見込み

(千t/年)	H16	H21	H26
汚泥	2,126	2,308	2,454
がれき類	1,232	1,141	1,080
廃プラスチック類	174	177	180
ガラスくず等	133	135	137
廃油	112	113	114
動植物性残さ	99	102	105
廃アルカリ	99	102	104
鋳さい	86	88	90
その他	258	258	258
排出量計	4,320	4,424	4,521

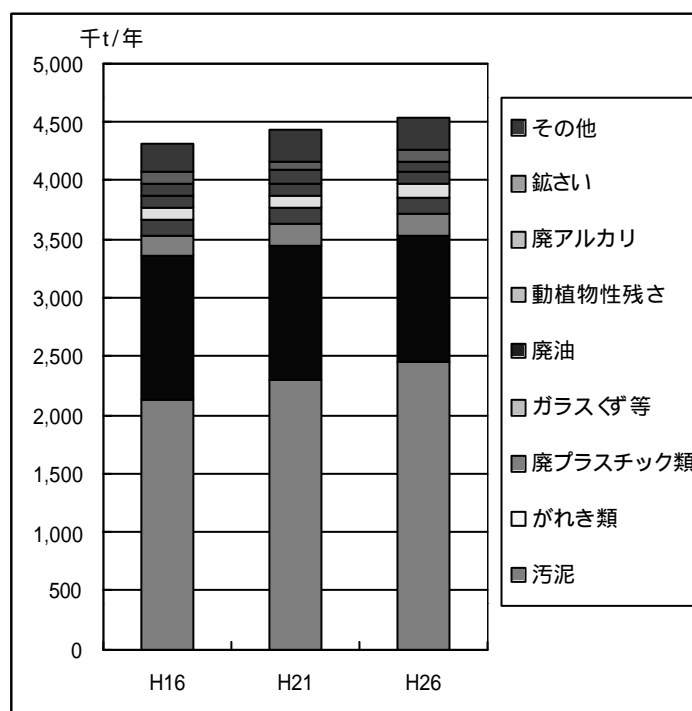


図3-2-2 種類物排出量の将来見込み